

果樹



8月の柑橘園管理



果樹

原口 悠貴

下島管農指導センター
080-2725-7775

中晩柑類においては今後も肥大と減酸を促進するため定期的なかん水を行い、品質の良いみかんを作しましょう。

1. 土壌水分管理

○温州みかん…温州では内容充実のため、乾燥ストレスをかけます。今後は無駄な水を入れないようマルチをされていない園では、早急に被覆を行いましょう。また、果実分析の内容を確認し、下の表を参考に水分管理を行って下さい。

8月1日時点果実内容目標

品 種	糖 度	生 産 対 応
極 早 生	8.5～8.9度	少量かん水3t以上／10a 5日間隔
	8.0～8.4度	現状維持
	8.0度未満	乾燥ストレス促進
早 生	8.5～9.4度	少量かん水3t以上／10a 5日間隔
	7.5～8.4度	現状維持
	7.5度未満	乾燥ストレス促進

○中晩柑…中晩柑では今後も肥大を促進させる為、雨が少ない場合は定期的なかん水を行きましょう。夏場の乾燥はコハン症の発生につながる要因の一つです。特に乾燥しやすい園地では注意をし、雨が少ない場合は3～5日おきに10t／10a程度のかん水を行いましょう。

2. 仕上げ摘果の実施

全品種 8月上旬を目途に仕上げ摘果を行って下さい。

○8月1日時点の肥大目安

品種名	目標階級	肥大目安	品種名	目標階級	肥大目安
極早生	M	46 ^ミ	デコボン	2L	47 ^ミ
早 生	M	39 ^ミ	河内晩柑	L	59 ^ミ
普 通	M	32 ^ミ	パール柑	2L	75 ^ミ
甘 夏	2L	57 ^ミ	清 見	2L	49 ^ミ

3. 病虫害防除

日焼け防止でサンテ等を使用する場合は、事前にミカンハダニ、アザミウマの防除を行って下さい。また、中旬以降カメムシの飛来に注意を行い、発生初期の防除を徹底しましょう。河内晩柑やパール柑ではさび果の発生を抑制するため、枯れ枝の除去と併せて中旬以降にオキシンドー水和剤 80 を散布して下さい。

○基幹防除

対象品種	対象病虫害	農薬名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数	備 考
温 州 中晩柑	黒点病	ジマンダイセン水和剤	600 倍	温 州 30 日前 中晩柑 90 日前	4回以内	混用散布
	ミカンサビダニ アザミウマ類	コテツフロアブル	4,000 倍	前日まで	2回以内	
河内晩柑 パール柑	黒点病 炭疽病 (さび果)	オキシンドー水和剤 80	800 倍	30 日前	温 州 5回以内 中晩柑 3回以内	中旬以降 散布

○ハダニ・カメムシ・アザミウマ防除

対象品種	対象病虫害	農薬名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数	備 考
温 州 中晩柑	ハダニ	スターマイトフロアブル	2,000 倍	前日まで	1回	発生時
	カメムシ チャノキイロアザミウマ	スタークル顆粒水 溶解剤	2,000 倍	前日まで	3回以内	サンテ等 被覆前
		Mr. ジョーカー水和剤	2,000 倍	14日前 まで	2回以内	多発時

4. 果皮強化対策

デコボンや清見については、果皮強化対策としてカルシウム剤の定期的な散布を行いましょう。

○ジュシーカル 1,000 倍 又は バイカルティ 1,000 倍

野菜



露地スナップ栽培



野菜

山下 伸一

下島管農指導センター
080-1729-1630

1. 作型

月	7	8	9	10	11	12
露地		○○		□□□□□□□□		
		播種		収穫		

2. 圃場準備 (kg / 10a 当たり)

	N	P	K
基 肥	20～25	30～35	20～25
追 肥	3	3	3
合 計	15	20	15

3. 播種

播種例 畝幅 120～135cm
株間 10cm の 1 粒、2 粒交互に播種し、MKK 等で覆土をします。

※降雨直前や、直後には播種は避けます。地温が高すぎると立枯れを起こすため注意しましょう。

地温を下げるマルチ資材

ミラーマルチ、白黒マルチ、敷き藁など。

4. 灌水

生育初期は灌水を控え、強い根張りを促します。灌水チューブを使用する場合は株元を乾燥させるため、生育するにつれ株元から徐々に離していきます。収穫が始まると灌水量を増やしていきます。

5. 整枝・摘花

採光、病虫害防除、樹作りの為 10 節ぐらいまでの側枝、花を摘み取ります。主枝 1 本仕立が基本となります。倒伏防止、品質・収量アップの為に必ずネットを張って誘引します。

6. 収穫

莢の膨らみ 7 分が適期となります。収穫が遅れないようにしましょう。

7. その他

- ・樹、莢が凍るため霜には注意してください。
- ・病虫害はうどんこ病、灰色カビ病、ヨトウムシ、タバコガ、ハモグリバエに注意しましょう。
- ・目標草勢 花はダブルで大きいもの。莖は鉛筆より太く、葉は肉厚、丸葉で 3 対葉。芯は大きく横向きのもの。

花卉



トルコギキョウ定植前後の管理について



花卉

吉澤 清

下島営農指導センター
080-1774-5386

【花言葉】

・すがすがしい美しさ、優美、希望

【原産地・生態】

・アメリカ合衆国テキサス州周辺が主な原産地で、高地から低地まで広く生息し、乾燥した地域で生育しますが、地下水位の高い湿った場所に生えています。発芽後に高温、乾燥の環境でロゼット（休眠）して、低温に遭遇後、翌年の夏に開花する宿根草の花です。

【定植準備】

・天草地域では、梅雨明け以降の気温が高く、高温期（8月～9月）定植では土壤消毒終了後、遮光率70%程度（白やシルバー）をハウスの上に被覆する。畝は、土壤水分状態が落ち着いた（過乾燥、水分過多ではない）圃場準備を行う。

【定植】

・定植時、畝の土壤水分は十分に気を付ける。過剰な水分で定植を行うと土の物理性を壊し、活着不良や根張りを悪くする原因になります。逆に過乾燥となるとロゼット（休眠）短径開花の原因になります。



【定植日の灌水】

・定植直後は、苗と圃場の土がなじむ（隙間がなくなる）ように手灌水による根回し灌水を行う。活着（葉が大きく展開すること）までは、過乾燥、水分過多にならないよう少量多回数灌水とする。

【定植日以降の管理】

・活着（葉が大きく展開すること）確認後、寒冷紗を除去する（定植後約2週間程度）。寒冷紗の除去は夕方に行い、その日（夕方）と次の日の午前中と夕方はスプリンクラー等で圃場全体を濡らす散水とする。寒冷紗除去～発蕾までは、スプリンクラー等を用いた上部散水を中心に行い、点滴灌水は、量を徐々に減らす。
*生育状況と畝の肩が乾かないよう留意しながら土壤水分を落ち着かせていくようなイメージで行う。液肥は、抽台（茎の伸長）を確認してから施用する。

【定植から発蕾までの灌水】

・水滴の大きな水での葉水（スプリンクラー灌水、マルチの上に設置したチューブ灌水、蓮口を使った手灌水）を晴天日の午前中（8～10月上旬は9～10時、10月中旬は10～11時、10月下旬以降は、11～13時）に気温を考慮して行う。
*葉先枯れ（チップバーン）や茎折れの発生が見られる場合は行わない。

畜産



子牛の第1胃（ルーメン）の発達の重要性について



畜産

井上 正一

黒毛牛検定センター
080-1729-1626

子牛から成牛になるまでは、ルーメンから第4胃までの四つの消化器官の発達割合は、表1に示したように非常に大きな差があります。生まれたばかりの子牛のルーメンおよび第2胃は無菌状態で、消化管としての機能は持っていません。ルーメンの占める割合は生後1週間では25%ですが、成牛になると80%にも増加します。逆に、第4胃は生後1週間では60%を占めていますが、成牛になるとわずか7～8%を占めるだけになってしまいます。第2と第3胃の占める割合は、子牛から成牛になるまでほとんど変化しません。したがって、子牛を育成して生産性の高い成牛にするためには、ルーメンを大きくさせる必要があります。

生後1週間で消化能力を持っている胃は第4胃だけです。初乳を含めミルク代用乳などを給与すると、第4胃に流出します。第4胃に流出したミルクは、蛋白質分解酵素により凝固し、ゆっくりと小腸内で消化されます。とくに初乳が第4胃で凝固するこ

とは非常に重要です。その理由は生後数日間は小腸の消化酵素の働きが十分でないため、消化しきれずに下痢を発症させてしまうからです。生まれたばかりの子牛のルーメンは消化機能を持っていません。子牛のルーメンの発達はルーメン壁の筋肉を厚くすること同時に絨毛を成長させ、消化機能を持つ胃にすることです。そのためには、穀類の給与が非常に重要になります。ルーメンははじめは無菌状態ですが、生まれた直後から環境下にいる微生物が口から侵入していきます。摂取された穀類は、ルーメン内ですぐに微生物により発酵し、発酵により生産された酪酸、プロピオン酸が絨毛の成長に必要となります。

以上のことから、生まれてすぐの子牛には十分初乳を与え、生後1週間内に濃厚飼料（モーレット等）の給与を開始し、ルーメンの発育を促し、健全な子牛の育成に努めましょう。

6月25日、繁殖牛供給センターで妊娠牛販売会を実施しました。

繁殖牛供給センターは、妊娠牛を繁殖牛農家に供給し生産性と所得を向上することを目的としてJAが運営しています。当日は管内の繁殖牛農家29名が参加し、9頭の妊娠牛を完売することができました。

販売会のあと、五嶋伸幸指導販売部長は「今後も良い妊娠牛を提供できるように頑張りたい。」と話しました。



子牛セリ市開催

7月17日に天草家畜市場で子牛セリ市が開催されました。子牛のセリ市は奇数月の17日に開催されています。

JAあまくさ管内からは160頭（全体で328頭）の子牛がセリにかけられ、平均価格は744千円（全体平均は735千円）となり、昨年7月のセリと比較すると68千円（全体では52千円）上回る成績となりました。

